

[成果情報名] 紀北地域における実エンドウの夏まき年内どり栽培の播種適期

[要約] 紀北地域における実エンドウの夏まき年内どり栽培における播種適期は、「紀の輝」、「きしゅううすい」とともに8月9日～12日であり、上物収量は10a当たり700～1000kgである。高温期には落花するため、収穫時期は10月中旬からとなる。

[キーワード] 実エンドウ、夏まき年内どり、播種時期、収量

[担当機関名] 農業試験場・栽培部

[連絡先] 0736-64-2300

[部会名] 野菜・花き

[分類] 普及

[背景・ねらい]

これまで和歌山県北部地域における実エンドウ栽培は露地秋まき春どり栽培が中心で、収穫期間が短く、栽培面積と出荷期間の拡大が望まれてきた。ここでは和歌山県産実エンドウの主要品種である「きしゅううすい」と「紀の輝」の露地夏まき年内どり栽培における播種時期が生育・収量に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 収量は、「きしゅううすい」、「紀の輝」とともに8月9日～12日播種が最も多く、10a当たり700～1000kgで、この時期より播種が早くても遅くても減収する。上物率は播種時期が遅くなるほど高い。8月12日に播種した場合、上物莢の約80%が11月中旬を中心とした約30日間に収穫される。本作型の収穫期間は降霜(11月末～12月上旬)までであるため、播種時期が遅くなるほど収穫始期が遅れ収穫期間が短くなる(図1、図2)。
2. 開花時期は播種時期が早いほど早く、「きしゅううすい」より「紀の輝」の方が早い。「紀の輝」では高温期の花は落花するため、着莢節位が高くなり播種時期に関わらず収穫時期は10月中旬からとなる。「きしゅううすい」では開花時期が遅いため落花が少ないが、8月12日以降の播種では播種時期が遅くなるほど収穫時期は遅くなる(表1)。
3. 9月25日頃までに開花した花の多くが落花するため、着莢には最高気温30℃以下、最低気温20℃以下となることが望ましい(図3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 「きしゅううすい」は開花節位の低下を図るため、吸水後種子低温処理(2℃、20日間)を行うか、3～8葉期に16時間日長の長日処理を行う。「紀の輝」では、開花促進処理は不要である。
2. 本作型では、低節位からの分枝が非常に少ないため、種子を10a当たり5～6L(30粒/畦長1m)用意し、茎数確保(25本/畦長1m)に努める。
3. 本作型では、土壌の昇温防止と乾燥防止のため白黒マルチ被覆とする。また、降雨が少ない場合は乾燥防止のため灌水チューブで適宜灌水を行う。
4. 本作型の導入にかかる経費は10a当たり15万円程度(販売経費・労賃は除く)で、粗収益は65万円程度である。
5. 本成果は、和歌山県北部地域の平坦地～中間地の結果である。

[具体的データ]

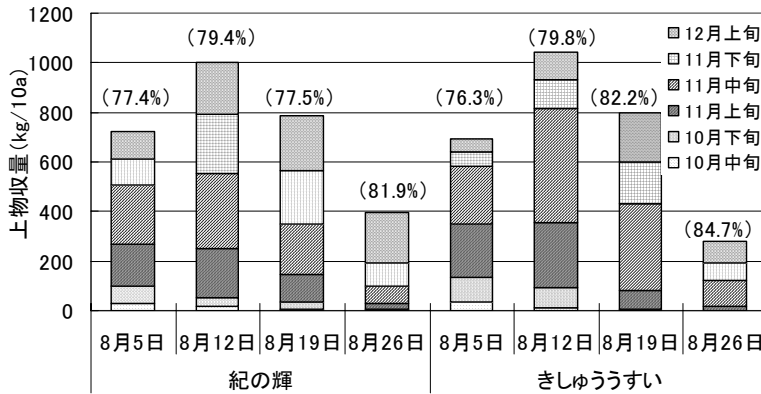


図1 実エンドウの播種時期が時期別の収量と上物率に及ぼす影響(2005年)
 注) ()は上物率、上物:子実粒数4粒以上で著しい欠粒の無い莢
 試験地:和歌山県農業試験場、和歌山県紀の川市貴志川町高尾(平坦地)

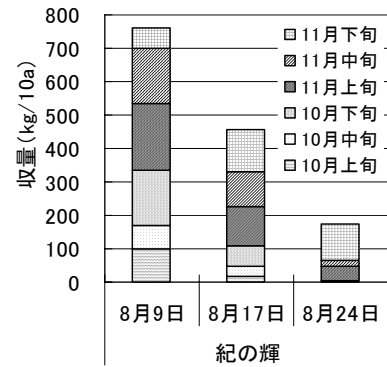


図2 実エンドウ「紀の輝」の播種時期と時期別収量(2004年)
 注)12月初旬に降霜のため収穫終了。
 試験地:和歌山県紀の川市切畑(中間地)

表1 実エンドウの播種時期が収量および開花始期、収穫始期、落花に及ぼす影響(2005年)

品種	播種日 (月.日)	収量 (kg/10a)	開花始期 (月.日)	収穫始期 (月.日)	開花節位 (節)	着莢節位 (節)
紀の輝	8.5	931	9.5	10.13	12	26
	8.12	1260	9.12	10.13	12	22
	8.19	1022	9.20	10.17	12	21
	8.26	532	9.26	10.17	12	16
きしゅうすい	8.5	898	9.15	10.13	19	22
	8.12	1305	9.23	10.13	19	22
	8.19	981	10.2	10.20	19	20
	8.26	333	10.12	11.4	19	19

注)「きしゅうすい」は吸水後種子低温処理(2°C、20日間)を実施後に播種。
 開花節位:第1花の開花節位、着莢節位:開花後最初に着莢した節位
 施肥量:基肥N:5kg/10a、追肥:N2kg/10aを開花期以降2週間おきに4~5回施肥。

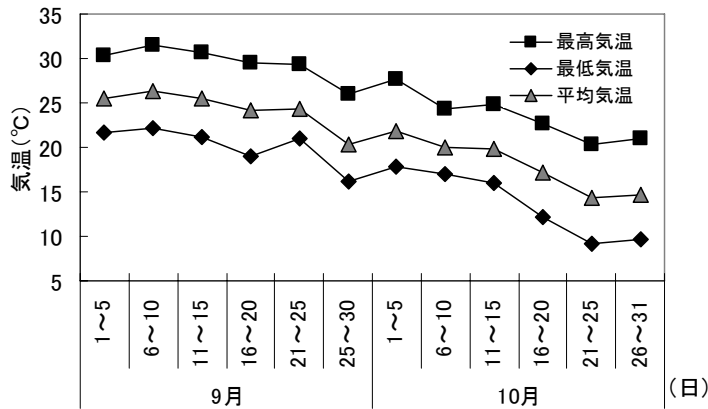


図3 実エンドウ夏播き年内どり栽培開花期の気象状況(2005年)
 注)観測場所:和歌山県農業試験場、和歌山県紀の川市貴志川町高尾(平坦地)
 値は5(6)日間の平均値

[その他]

研究課題名:産地いきいき健康エンドウ生産技術

予算区分:県単

研究期間:2004~2005年度

研究担当者:東 卓弥、西森裕夫

発表論文等:なし